

には、前記のうち森田平次が抜萃したものがあり、これは温故雜帖十四冊、拾遺温故雜帖三冊となつてゐる。

オンコシユウロク 温故集錄 五十五冊。

森田平次著。前田綱紀の寛文・延寶・天和・貞享・元祿・寶永・正徳・享保中、諸事に就いて古老の傳説を下問した時、答申した書類を類聚したものである。

オンコシヨウサン 温故證纂 越後三州志の分註によつて見ると、富田景周の古文書蒐集に温故證纂及び汲古北徴録がある。温故證纂は今存しないから、如何なる内容のものであつたかを知り得ぬが、後に森田平次が汲古北徴録の前田家文書中から出たものであることを指摘したるによつて類推すれば、温故證纂も之と性質を同じくし、景周が越後三州志編纂に際し、参考に資せんが爲に撰寫して、便宜上この題簽を加へたものであらうと思はれる。

オンコソクチヨウ 温故足徵 三冊。富田景周著。加越能の社寺及び藩士等の家に傳來する書翰・感狀等を集めたもので、天正以降の文書蒐集である。

オンジカツチカ 音地克比 通稱正次郎。清左衛門。天明三年養父久兵衛安平の遺知百八十石を受け、六年大小將に列し、前田齊敬の御抱守から累進御側組頭に至り、文政元年八月百石を加へ、六年七月致仕して暇水と號した。

オンジカンエモン 音地勘右衛門 初め興力として百五十石を領し、寶永四年因幡御前附御用人並に任じ、組外に班し、三十石を加

オンジュヒロク 温樹秘録 大聖寺藩の末期に於ける平井復齋の手記である。初めは揮仮秘録と言つたものらしい。本書の前半は大聖寺藩主八代前田利考のことを、後半は九代前田利之のことを書いてあるのだが、その區別を明らかにしてないから、年代で判断しなければならぬ。又その中に復齋自身のことも書いてある。

オンセンジ 温泉寺 ↓ヤクオウイン 藥王院。

オンセンジ 恩善寺 河北郡袋に在つて、眞宗東派に屬する。もと同郡二俣の本泉寺境内に在つたが、明治十一年三月今の所に移つた。

オンチシャ 温知舎 大聖寺藩に於いて明治二年三月に建てた學校に温知舎・達材舎・啓蒙舎があり、温知舎・達材舎は從來の學校である時習館内に置き、啓蒙舎はその隣地野口物集女の舊邸に設けられた。温知舎は通生に、達材舎は寄宿生に漢學を授ける所で、教科用書は春秋左氏傳・蒙求・小學・二十一史等であり、啓蒙舎は幼童に素讀・習字を教へる所で、孝經・四書・五經を用書とした。是等は洋學の眞正館と共に、總稱して大聖寺藩學校といはれ、廢藩に至つて止んだが、啓蒙舎の如きはその後もまだ名が見える。しかしこれは組織が變じたのであらう。

オンチセイヨウ 温知政要 二冊。意成閣書と書名に冠してある。享保四年から見聞したことを眞偽を正さず書留めたものといふ。意成は著者の名であるが、未だ何人であるかを詳かにせぬ。

豊臣家の説話を集録したものであるが、前田家の事件も少くない。享保頃の著。

オンチンジュギン 御鎮守銀 天保三年十二月の令に御鎮守銀年賦償還の件に關するものがある。これは學校に附屬して居た鎮守天満宮維持の爲に蓄積せられて居た資銀であらう。此の鎮守を俗に聖堂ともいうたが、御鎮守銀は聖堂銀といふものと別である。

オンツウジ 恩遇寺 羽咋郡北川尻に在つて、眞宗東派に屬する。

オンボウ 隠坊 隠坊は隱内にして死人を取扱ふものゝ稱である。故に隠坊は隱内であるが、隱内が悉く隠坊であるとは限らない。しかし金澤では、隱内も又は隱内ではない穢多も、すべて隠坊と呼ぶ風があつた。

オンボウザル 隠坊坂 金澤高道町から大衆免へ行く小路で、僅かな坂道である。昔此の地に二戸の隱内が居たが、家建の多くなると共に他に轉じた。しかし今に至るまで隠坊坂の地名のみは残つてゐる。 ↓オンボウ 隠坊。

オンボウマチ 隠坊町 ↓アサノオンボウマチ 淺野隠坊町。

オンボウマンザイ 隠坊萬歳 ↓マンザイ 萬歳。

オンリヨウイン 温良院 加賀藩主第十四代前田慶寧の女で、柳原政敏の室であつた禮姫の法號。

オンリヨウソウコウ 温良宗興 曹洞宗の僧。能登の人。初め永光寺の明峰素哲・光孝寺の童庵至簡に依り、後珠巖道珍に大乘寺に従つて印可を受け、永光寺をまつた。隠永十

カ

カアヒカロウ 嘉會靈顯 金澤の俳人。年風に學び、柿丸舎五代を稱した。通稱今石助屋幸三郎、明治の後嘉會庵六と改めた。

カイアン 槐庵 金澤に於ける蕉風俳人の庵號。關東の門人馬來先づ之を稱へ、蒼虬、馬來門の李下、同梅室、梅室門の太常、同大夢、道雄、眞澄、大素が繼席した。

カイイン 海印 ↓ブツザンカイイン 佛山海印。

カイエキ 改易 ↓チギヨウメシハナサレ知行被召放。

カイオクジユゲン 海屋壽言 二冊。明治十九年容齋藤田維正が還曆の齡を迎へたので、知友門人が寄せた賀詞を集めたもの。

カイカンジ 改觀寺 鹿島郡小島に在つて、眞宗東派に屬する。

カイギシヨ 會議所 明治元年九月加賀藩では、輿論を開き下情を通ぜしめんが爲に會議所を開き、上野建言を容れることにした。三組頭が主任し、實檢の間に於いて會議を開いたのである。

カイケイヤウ 懷惠夜話 二冊。享保四年由比勝生の著。前田利長・利常・光高・綱紀の世の故事舊傳を載せ、評論を加へたものである。藩外の事蹟も多く記されてゐる。序跋はない。

カイケイリヨウ 會計寮 明治二年三月廿六日加賀藩は會計寮を置き、舊改作所を勘殿局、御勝手坊を理財局、産物坊を商法局、御

オンチカツチカ 音地克比 通稱正次郎。清左衛門。天明三年養父久兵衛安平の遺知百八十石を受け、六年大小將に列し、前田齊敬の御抱守から累進御側組頭に至り、文政元年八月百石を加へ、六年七月致仕して暇水と號した。

オンリヨウソウコウ 温良宗興 曹洞宗の僧。能登の人。初め永光寺の明峰素哲・光孝寺の童庵至簡に依り、後珠巖道珍に大乘寺に従つて印可を受け、永光寺をまつた。隠永十

カイケイリヨウ 會計寮 明治二年三月廿六日加賀藩は會計寮を置き、舊改作所を勘殿局、御勝手坊を理財局、産物坊を商法局、御